

青森で

ほほえみで心にゆとりを持ち、児童虐待の防止につなげようというユニークな事業に青森県が取り組んでいる。「ほほえみプロデューサー」と名付けた「笑いの伝道師」を養成、地域や家庭で笑顔を引き出し、子育て中の親が不安や悩みを相談しやすい人的環境をつくるというもので、県は「全国でも例のない取り組み」としている。

県内の児童相談所に寄せられた虐待の相談件数は二〇〇七年度に四百十四件で増加傾向。「笑いの力で改善できないか」と考えた県子どもみらい課の山本菜穂子主幹らが、笑いの医学的効果を研究する日本医科大学の高柳和江准教授（医療管理学）に相談、事業化した。

研修を受けた県職員らが各地で約一時間の講習会を開き、笑顔を引き出す方法を伝授。参加者は二人一組でお互いをほめ合ったり、寸劇を演じる中で相手の気持ちを和らげる話し方を学び、ほほえみプロデューサーに認定される。〇七年秋から

「伝道師」を養成、育児相談に ● 児童虐待防止に活用

笑いのちから

の講習会は計約一万人が参加したという。

受講者に職場の人間関係が良くなるなどの効果があったといい、高柳准教授は「笑いにはうつや怒りを抑える効果があるが、思った以上の成果が出た」と手応えを説明、参加者も「ちょっとした言葉遣いで環境が大きく変わった」「生きる希望を持つことができた」と話しているという。

子どもへ道化師治療 有効性公認 ● 「パッチ・アダムス」に補助金

イタリアで

【ローマ共同】イタリア政府は四日までに、道化師役の人が病気の子どもを笑わせて子どもの回復を図る臨床道化師治療の有効性を認め、普及のため二百万ユーロ（約二億五千万円）を支出することを決めた。道化師役を演じるボランティアも募集する。ANSA通信が伝えた。

臨床道化師治療はオランダで始まり、米国の医師の実話に基づく一九九八年の映画「パッチ・アダムス」で有名になった。臨床道化師が病院を訪れ、つらい治療を受けている子どもの前で道化を演じるもので、欧米に続き日本でも治療が行われている。

イタリアではローマなどの一部病院で治療が行われているが、政府は希望する病院に補助金を出すことで全国での普及を目指す。また、ボランティアが臨床道化師になるためのトレーニング経費も補助する。

担当のカルファニーヤ機会均等相は「臨床道化師治療により、子どもたちの病気に対する不安や恐怖を打ち消し、前向きな気持ちを持たせることができる」と語った。

(第3種郵便物認可)

新聞定価消費税込み11ヵ月3250円、1部(朝刊)100円(夕刊)40円